

社会科における「調べたことを表現する力」を育てる指導の工夫 －プレゼンテーションソフトの活用を通して－

情報教育班 前田 泰伸（小学校教諭）



〈これまでの授業〉



●資料を読み取れない。理解できない。
要因：資料は単に提示して考えさせるだけ。
しかもたくさん提示する。

●調べたことをうまく表現できない。
要因：表現活動の時間を確保できなかった。
しかもいつも同じパターンで表現させる。

〈授業改善〉

★資料を読み取る力を育てる

★資料の提示方法の工夫

- ・実態に合わせて資料を精選
- ・プレゼンテーションソフトによる提示
- ・デジタルコンテンツを活用した提示

拡大して、見やすく
動きを出して面白く

★資料読みとイマニユアルの作成

観点をはっきり
させて、読
み取りやすく

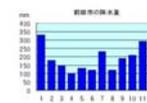
写真（絵）の読み取り方



その2
「写真（絵）からわかることは？」
・いつ、どこで、何をしていたか。

その3
「不思議・疑問をさがそう。」
・何が写っている（描い）
・どんな人が写っている
・自分が知っていること
・調べてみたくなったこと

グラフ（表）の読み取り方



その1
「何のグラフ（表）だろう。」
・タイトルを見つけてみよう。

その2
「グラフ（表）からわかることは何だろう？」
・いつのグラフ（表）かな。
・どここのグラフ（表）かな。
・何を表しているのかな。

その3
「不思議・疑問をさがそう。」
・どんな変化があるかな、どうしてだろう。
・自分が知っていることと違っているところはないかな。
・調べてみたくなったことはないかな。

★表現する力を育てる

★プレゼンテーションソフトの活用（はっぴょう名人）

～プレゼンテーションソフトを使うよさ～

- いろいろな機能を使い、楽しみながら学習できる。→主体的に取り組む。
- 箇条書き、または、キーワードを中心にしたわかりやすい文章表現になる。
- 文字飾りや色による強調、画像の挿入などが簡単にでき、豊かな表現になる。
- スライドの加筆修正が容易にできる。

・発表はパビリオン方式で（発表時間の確保）

グループごとに「発表役」と「聞き役」に分け、「発表役」は他のグループの児童に発表を、「聞き役」は違うグループへ聞きに回るという形式で行われた。2つの役割は、前半後半で時間を区切り交代させた。

前半 前半発表役→発表 後半発表役→他のグループの聞き役
後半 後半発表役→発表 前半発表者→他のグループの聞き役



〈成果〉

- ★資料に関心をもち、積極的に発表できるようになった。
- ★資料を読み取ることに対して抵抗感がなくなり、資料から事実や新しい発見などさまざまなことが読み取ることができた。

- ★意欲的、主体的に取り組む、一人一人の願いがこめられたスライドを作成できた。
- ★資料を分析し、裏付けとしながら自分の考えを表現できた。

児童自ら学ぶ意欲をもちながら主体的に学習を進められる授業